参考和訳

日本航空株式会社（2024 年トランジションボンド）

契約の種類：アニュアルレビュー
日付：2025 年 4 月 28 日
担当者：
Tomya Sardana, tomya.sardana@morningstar.com

本アニュアルレビューは、サステイナリティクス社が英語で作成した「Annual Review (April 2025)」の参考和訳として、日本航空株式会社が翻訳したものです。
英語版と本参考和訳との間で不一致がある場合は、英語版が優先します。

はじめに

2024 年 5 月、日本航空株式会社（以下、「JAL」もしくは当社）は、クリーン輸送プロジェクトへのファイナンスを目的とする 2 件のトランジションボンドを発行し、計 800 億円を調達しました。（以下「2024 年トランジションボンド」）。2025 年 4 月、JAL は、2024 年トランジションボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクト（「選定された支出」）が日本航空株式会社トランジションボンド・フレームワーク（以下、「フレームワーク」）[1] で設定された資金使途のクライテリアやレポーティングの指標に合致しているかについての評価を、サステイナリティクスに委託しました。サステイナリティクスは 2022 年 1 月にフレームワークについてセカンドパーティ・オピニオンを提供しています[2]。本レビューは、2023 年 2 月[3]、2024 年 5 月[4]のレビューに続き、フレームワークに基づいて発行された債券の資金充当状況・レポーティングに関する 3 回目のレビューとなります。

評価基準

サステイナリティクスは、以下の要件について、選定された支出と JAL のレポーティングを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアと適合しているか
2. フレームワークで設定された各資金使途カテゴリーに対する重要パフォーマンス指標（KPI）の少なくとも一つに則って報告しているか

表 1：調達資金のカテゴリー、適格クライテリア及び関連する KPIs

調達資金のカテゴリー	分類	適格クライテリア	重要パフォーマンス指標
クリーン輸送	トランジション	「2030年までのCO_2削減の目標・取り組み」[5]に掲げた、省燃費性能の高い最新鋭機材（A350・787など）への更新	年間 CO_2 削減量

---

[1] 日本航空株式会社トランジションボンド・フレームワークは、こちらよりご覧頂けます：
https://www.jal.com/ja/sustainability/transitionbond/pdf/framework.pdf
[2] サステイナリティクス「日本航空株式会社　セカンドパーティ・オピニオン（2022）」は、こちらよりご覧頂けます：
https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/japan-airlines-co-ltd-transition-bond-second-party-opinion-(japanese)_revised-in-july-2023.pdf?sfvrsn=75159537_1
[3] サステイナリティクス「日本航空株式会社　アニュアルレビュー（2023）」は、こちらよりご覧頂けます：
https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/japan-airlines-co.-ltd.-transition-bond-2022-annual-review-(2023)-japanese.pdf?sfvrsn=d5283278_1
[4] サステイナリティクス「日本航空株式会社　アニュアルレビュー（2024）」は、こちらよりご覧頂けます：
https://www.jal.com/ja/sustainability/esg-finance/transitionbond/pdf/annual_review_2nd_jpn.pdf
[5] JAL は 2030 年度までに全燃料搭載量の 10%を SAF に切り替えることを目標としています。さらに、JAL は燃費効率向上や CO_2 排出削減に繋がる様々な運航方法の工夫を推進しています。

発行体の責任

JAL は、プロジェクトの概要説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

ESG に関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界を牽引するサステイナリティクスは、JAL の 2024 年トランジションボンドによる調達資金の使途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、JAL からの文書の収集及び確認を行いました。

サステイナリティクスは、JAL から提示された情報と事実に依拠しています。JAL が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステイナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステイナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果については社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果[6]、すべての重要な側面において、選定された支出が、フレームワークの資金使途クライテリア及びレポーティング指標に適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。JAL は、サステイナリティクスに対し、2024 年トランジションボンドの調達資金が 2024 年 12 月時点で全額充当されていたことを開示しました。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

フレームワーク上の要件	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途クライテリア	選定された支出を対象に、フレームワークに示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	選定された支出は資金使途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティングクライテリア	選定された支出を対象に、インパクトがフレームワークに示されている KPI と適合する形で報告されたかを検証。	JAL は各資金使途カテゴリーの KPI の少なくとも一つに則って報告していました。	該当なし

[6] サステイナリティクスの限定保証プロセスには、正確な情報を提供する責任のある、発行体から提供されたプロジェクトの詳細に関する文書の調査が含まれます。これにはプロジェクトの説明、コストの見積及び実額、報告されたインパクトなどを含む場合があります。サステイナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

参考資料

参考資料 1:資金充当状況

表 3：2024 年トランジションボンドの充当状況

調達資金の使途のカテゴリー	プロジェクト概要	調達資金の充当額（億円）
クリーン輸送	省燃費性能の高い最新鋭機材への更新	795
	充当額：	795
	未充当額：	0
	調達金額：	800[9]

参考資料 2:報告されたインパクト

表 4：2024 年トランジションボンドの報告されたインパクト[10]

調達資金の使途のカテゴリー	年間 CO_2 削減量[11]
クリーン輸送	6.5 万トン

[9] JAL はサステイナリティクスに対して、2024 年トランジションボンド発行額 800 億円から発行費用 5 億円を差し引き、充当額は 795 億円である旨を伝えました。
[10] JAL によるインパクト・レポーティングは、こちらよりご覧頂けます：
https://www.jal.com/ja/sustainability/esg-finance/transitionbond/index_3rd.html
https://www.jal.com/ja/sustainability/esg-finance/transitionbond/index_4th.html
[11] レポーティング期間は 2024 年 6 月から 2024 年 12 月の 6 か月間。CO_2 削減量は、7 機分の機材について、従来機比 18%の削減分となっています。